

物が少なく、自生品か栽植品を管理しているのかもしれない。

参考文献

- (1) 南 敦 1978. 柳井市の植物 (一). 柳井市郷談会誌第2号
- (2) 南 敦 1991. 山口県周防部南部の若干の池沼、河川の水草 (その1). 水草研究会会報 43号 (1991. 9. 4 記)

福島県猪苗代湖のヨシ群落

星 一 彰

(福島県自然保護協会)

猪苗代湖は、福島県のほぼ中央に位置し、南北14キロ、東西10キロのやや長円形をなし、湖面面積104平方キロで、日本で4位の大湖である。標高514メートル、最大深度94メートル、湖岸の長さ49キロである。

猪苗代湖の水生植物、特に大型でよく目立つヨシの群落分布については、その調査報告が皆無に等しい。

1991年8月16日、湖岸道路を中心に全域のヨシ群落分布状態を調査した。調査結果は図1の通りである。全般的に湖北岸部に大群落分布 (図2および図3) し、西側にも点在している。群落湖岸距離は、全長49キロの約3分の1に達する。しかし、東側の大部分は護岸工事が進んでおり、ヨシ群落は皆無である。最大流入河川長瀬川流入口付近も1部護岸工事が進んでおり、ヨシ群落の減少が認められる。湖北岸部には、他の水生植物も多く、コウホネ、フトイ、クロモなどが目立っている。

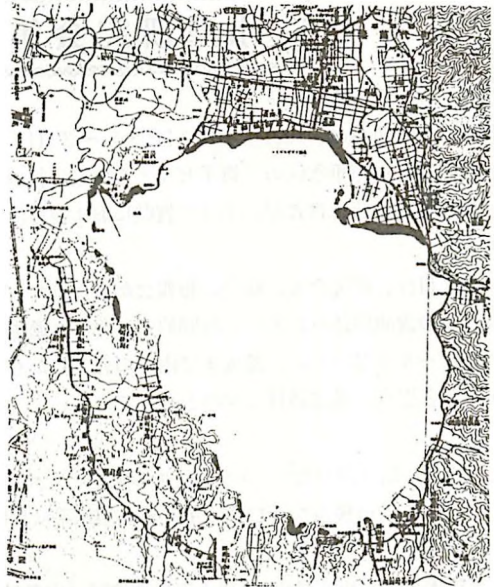


図1 猪苗代湖ヨシ群落分布図 (黒塗りの部分)

猪苗代湖は現在、水資源として使用されており、流出河川日橋川の流量調節により、湖面低下も認められる。道路拡張や宅地造成などによって、ヨシ群落が1部失われた現実も確認することができる。

猪苗代湖岸のヨシ群落は、福島県内で最大規模の群落と考えられる。会津フレッシュリゾート開発地域に指定されている現実を考える時、その景観構成、水質汚濁防止効果などから考え、極めて貴重な自然文化財といえることができるであろう。永久に保護されることが望まれる。



図2 猪苗代湖北岸のヨシ群落

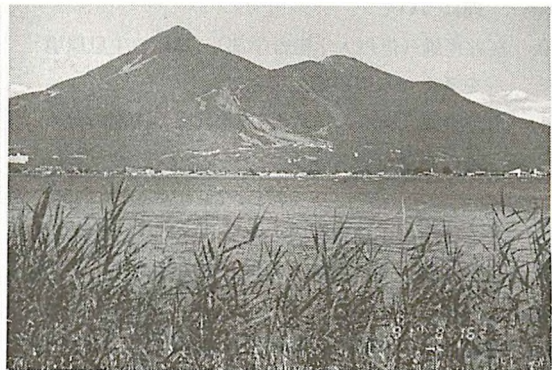


図3 磐梯山と猪苗代湖 (ヨシ群落)